

【ラテン語】

辞書案内

初等文法を学ぶクラスでは、教科書に必要な単語は載っていますので、特に辞書を手元に置いておく必要ないでしょう。原典購読を行うクラスになると、もちろん必要です。多くの人にとって便利なのは羅和辞書だと思いますが、これはごくわずかしきありません。羅英、羅独など外国語の辞書は、小辞典から大辞典まで多数あります。小型のいわゆるポケット版は、単語の意味だけ載っているような、ごく簡便なものなので、携帯向きです。学習するには中辞典を使いましょう（さらに学習が進めば、大辞典も）。語法の説明がされていて、用例も適切に挙げられている詳しい辞典のほうが、結局は分かりやすいからです。以下に挙げた外国語の辞典は、学習者が使いやすい中辞典です（羅英、羅仏、羅独のみ）。

[羅和辞書]

- 1 『羅和辞典 増訂新版』 研究社 1966 年（重版多数）
- 2 『羅和辞典 改訂版』 研究社 2009 年（6000 円、税抜き）
- 3 『古典ラテン語辞典』 大学書林 2005 年（35000 円、税抜き）

2 は1の改訂版で、1 同様、古ラテン語から近代の学術用語まで採録されています。1 よりも例文がかなり増えている点、分かりやすくなっているように思います。これには電子辞書版もあります。1 は現在のところ、古本でのみ入手可能のようです。3 は、古ラテン語期から古典ラテン語期までの語が採録されており、例文が豊富で充実しています。ただ、高価です…。

[羅英、羅仏、羅独辞書]

- 1 D. P. Simpson, *Cassell's New Latin-English English-Latin Dictionary*, Cassell.
- 2 C. T. Lewis, *An Elementary Latin Dictionary*, Oxford.
- 3 W. Smith, J. Lockwood, *Chambers Murray Latin-English Dictionary*, Chambers / Murray.
- 4 H. Goetzler, *Dictionnaire latin-français*, Garnier.
- 5 E. Pertsch, *Langenscheidts Handwörterbuch Lateinisch-Deutsch*, Langenscheidt.

いずれも語法の説明があり、例文も適宜、載っています。ただ、すべての例文に和訳が付いている羅和辞典と違い、外国語のラテン語辞書では例文にあまり（または、ほとんど）訳が付いていません。そこで、ある程度学習が進んで単語力もつき、ラテン語が読めるようになっていないと、例文の意味が分からない、ということが起こります。1 は英羅もある点が便利です（あまり使わないかもしれませんが）2 は例文が豊富です。3 は語法の説明が親切なように思います。ただ、活字が小さいです。4 は羅仏です。5 の羅独には、古ラテン語期から近世の学術用語までが採録されています。